

「水の都～木場の名残～」公開

広報委員会 統括
副理事長 小泉勝



子供のころ父親から「お前は、富岡橋の橋の袂で泣いていて、かわいそうだからうちの子にしてやった」などと言われてきたが、うちだけではなく、大体みんな川筋が違うが、そんなことを言われてきたらしい、

桃太郎、モーゼなど川で子供を拾うのが、立派な子供になるとかだったのだろうか？今の時代そんなことを子供に言ったら「川ハラ」ですよ、若いお父さん気を付けて！

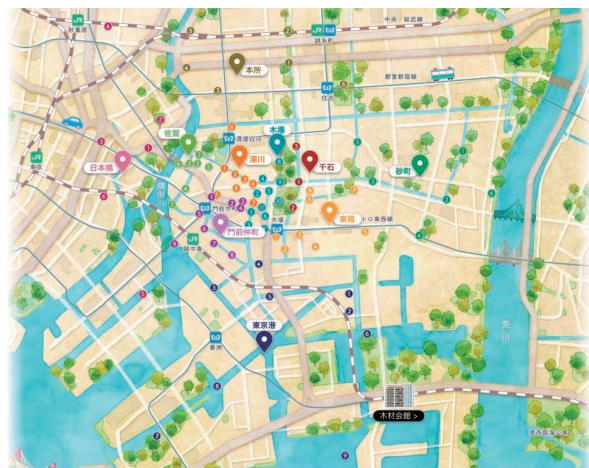
川も埋め立てられ、橋も廃橋になるこの時代、それが少子化の原因なのではないのか？と思ってしまう今日この頃、

自分が拾われた川がどうなっているのか知りたい人のために水の都～木場の名残～というブログを、東京木材問屋協同組合120周年、新木場移転50周年にかこつけて書いてみました。

この度 広報委員会 Blog を東京木材問屋協同組合サイトに、新たに「水の都～木場の名残～」としてページを作り公開しました。

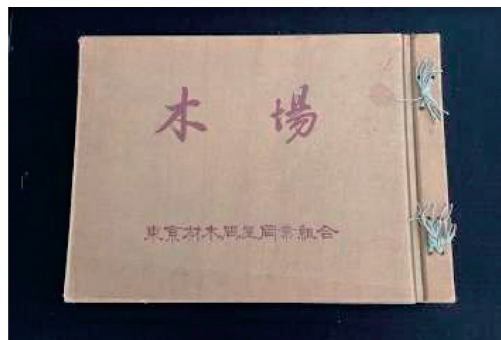
徳川幕府の御木蔵は、明治に皇室御用材の貯木場、戦後国有（農林省林野庁）貯木場と名を変えて移転していった、

江戸市中の材木町は、都市開発・水路開発・防災計画により 麴町材木町、京橋本材木町、神田佐久間町などから明暦の大火で深川に移転させられた（元木場）、さらに木場の開発が進み深川から木場に移転せられる、（最後？）戦後 木場から新木場に移転となりほぼ50年



このブログは 東京木材問屋協同組合、広報委員会のメンバーなどが、世代間ギャップを埋めるため、現状の写真を撮影、文章、記事を書いていき、木材よもやま話から4件を移植、他に約70件の記事を纏めたものです。

古い写真は、下記2冊などから



「木場」東京木材問屋同業組合
昭和17年(1942)12月30日発行
木場の成立から、明治、大正、昭和16年
木材統制、問屋同業組合解散までの記録

ここから100年(組合設立から120年)



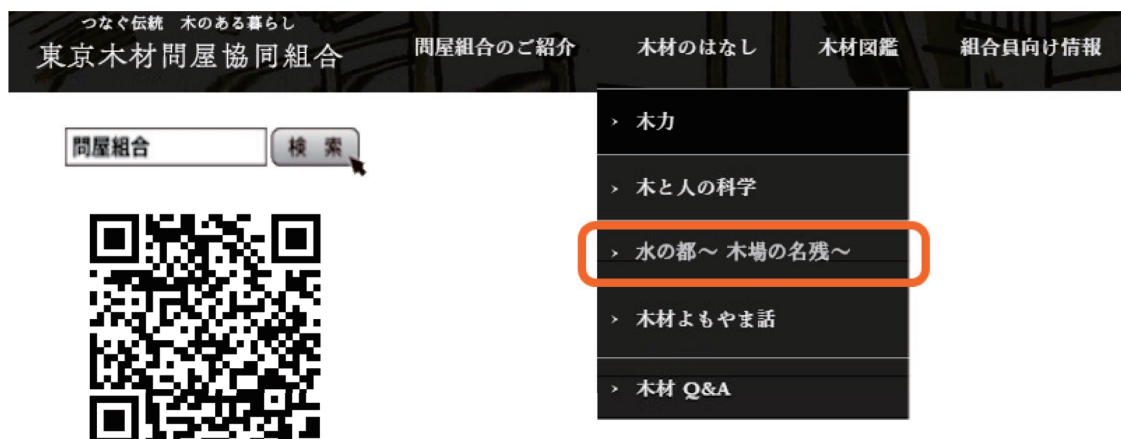
「木場」東京木材問屋同業組合 昭和17年を踏まえ、新木
場移転前までの、木場の記録が
「深川 木場」林材新聞社発行 昭和50年4月16日

ここから50年

なを、今は亡き八重洲ブックセンターの古地図フェアで買い集めた古地図はすべてどっかに行ってしまったので、

この2冊と現在の画像と 航空写真[地理院地図Vector(試験公開)]、
古地図[国際日本文化研究センター]などで補完しております 印刷配布禁止

ページは東京木材問屋協同組合メニューから



歴代広報委員の誰か